

5-1 「同じようなこと」の as がなぜ譲歩に？

— 「譲歩の as」のからくりとは？

1 なぜ「同じようなこと・もの」を表す as が譲歩になるのか？

前章で as のいろいろな用法は「同じようなこと・もの」という基本的意味から派生したものであることはおわかりいただけたと思います。ところが as には「譲歩の as」と呼ばれている用法もあります。

- (1) Clever as the idea was, it eventually proved unable to compete with a new phenomenon.

「アイディアは優れていたものの、結局そのアイディアは新しい現象には太刀打ちできないことがわかった」

- (2) Strange as it may seem, in order to find descendants of the dinosaurs in today's world, we need to turn to birds.

「奇妙に思われるかもしれないが、現代世界で恐竜の子孫を発見するためには鳥に目を向ける必要がある」

上の2例でおわかりのように、「譲歩」の意味では、構造的に形容詞（もしくは副詞や名詞）が as に先行するという特徴があります。例文 (1) (2) とともに as の前にはそれぞれ形容詞 clever と strange が置かれています。ところで「様態」や「比例」「理由」と異なり、「...であるにもかかわらず」という「譲歩」は、どう考えても「同じようなこと・もの」とは真逆の意味になります。

2 「譲歩の as」は本来は「比較」

なぜ as は「譲歩」の意味を持つことになるか、次の文をもとに考

えてみましょう。

- (3) Tired as she was, she walked to the station instead of taking a taxi.

「疲れていたが、彼女はタクシーに乗らずに駅まで歩いた」

実は「譲歩の as」とは、構文的には (Being as) tired as she was という分詞構文がベースになっています。上の文では Tired の前にあった as が省かれています。つまり、もともとは (As) tired as she was のように比較構文の前半の as が欠落したものです。

- ▶ **Being as tired as she was** (この通り (実際に) 疲れていたほど彼女は疲れていた) + she walked to the station (駅まで歩いた)

⇒「疲れていたにもかかわらず、彼女は駅まで歩いた」

つまり、as 自体は as ~ as に含まれた「比較の as」です。分詞構文の分詞の意味は主節との関係から決まります。as 自体に譲歩の意味があるわけではないのです。分詞構文の Being と最初の as (= 副詞の as) が省略された結果、構造上は〈形容詞 + as + SV〉になっただけです。実際には、〈形容詞 + as + SV〉であっても、もともとは分詞構文ですから、常に譲歩の意味になるとは限らず、主節との関係によっては「理由」を表すこともあります。

- (4) Tired as she was, she went to bed earlier than usual.

「疲れていたため、彼女は普段よりも早く床に就いた」

アメリカ英語では最初の as が残っている場合があります。

- (5) As hard as she tried, she could never convince her parents to let her have a dog.

「いくら頑張っても彼女は両親を説得して犬を飼う許しを得ることができなかった」

- (6) As poor as he was, he still had enough for his family to eat.
「貧しかったが、彼は家族が食べていくだけの蓄えはあった」

このようなことを考え合わせれば、個人的にはこの「譲歩の as」という呼び方は「濡れ衣」と思います。

3 Try as S will/may の場合も

「譲歩の as」とされるものには、もう1つのパターンがあります。

- (7) Try as you will, you can't do it in an hour.
「どんなにやっても、それを1時間ではできない」

〈try as S will/may〉で「いくら努力しても」という譲歩の意味になりますが、これも元を正せば as 自体は「様態」です。will の次に as you will try (あなたがやるように) と try を補うことができ、全体は文字通り命令文で、「あなたがやるようにやってみよ」です。結局は「あなたがやりたいようにやってみよ⇒(それでも)無理だから」と、これも try と主節の内容との関係から譲歩の意味が生じるわけです。ここでも as に譲歩の意味があるわけではありません。また、この as の用法は次のようなパターンにもつながります。

- (8) Standing as it does on a hill, this house commands a fine view.
「この通り丘の上にあるから、この家は見晴らしがいい」

これは、〈Doing + as + S + do/does/did〉あるいは〈過去分詞 + as + S + be 動詞〉(いずれも分詞構文)で、as 以下が分詞構文

を強調するパターンです。この形は通例「この通り...なので」と「理由」を表します。次のように代名詞や言い換えが使われるのも特徴です。

- ▶ Standing **as it** (= this house) **does** (= stands) on a hill, this house commands a fine view.

次に〈過去分詞 + as + S + be 動詞〉の例をあげましょう。

- (9) Written as it is in a plain English, this book is suitable for beginners.
「(この通り)平易な英語で書いてあるから、この本は初心者向きだ」

- ▶ (**Being**) written **as it** (= this book) **is** (**written**)
⇒ 省略された Being に合わせて be 動詞 is が使われている。その後の written は省略される

このように、文頭が *Doing* の場合は、それにあわせて as 以下で元の動詞を do/does/did で言い換える(例文(8)では does は stands の言い換え)ため、〈～ as + S + do/does/did〉となるのに対し、文頭が過去分詞の場合には前に Being を補うことができることから、as 以下には do/does/did ではなく be 動詞が来るため、〈～ as + S + be 動詞〉となります。

まとめ

- 「譲歩の as」は as 自体に譲歩の意味があるわけではなく、もともとは分詞構文の意味から決まる
- 場合によっては「理由」の意味になることもある